2021/08/15　　中村寿夫

「渇くことのない水をあなたに」

ヨハネの福音書　4 章 1 節～26 節

はじめに

人と人の出会いは、まことに不思議です。出会いたい人に会えない。これが小説の種になり、人々の興味を誘う。出会いたくない人に、出会ってしまう。

「人は、出会いによって決まる」と言われますが、真理の一端は含まれているでしょう。結婚もそうですね。この人と出会ったことで、あなたの人生は決まった。しまったと思うか。良かったと思うか。それぞれ違います。私の場合、ロッス宣教師夫妻に会ったことと、数枝に会ったことが私の人生を全く変えてしまいました。

１　サマリヤの女との出会い。

このサマリヤの女との出会いは、イエス様の方から決めたものでした。しかも、それは当時あり得ないような出会いでした。「ユダヤ人はサマリヤ人をつきあいをしなかったからである」と聖書は説明しています（９）。そして、それが女の人であることを知った弟子たちでさえ、「不思議に思った」のです（27）。

（１）サマリヤを通って行かなければならなかった。

イエス様は、エルサレムのあるユダヤ地方での伝道活動を終え、故郷であり活動の拠点でもあったガリラヤに行こうとされていました。ユダヤからガリラヤへの道は、三通りありました。地中海沿いの道、サマリヤを通る山道、ヨルダン川沿いの道です。サマリヤを通る道が一番近いのですが、ユダヤ人はサマリヤ人を嫌っていたので、めったにこの道を通ることはありませんでした。

しかし、この日、イエス様は「サマリヤを通って行かなければならなかった」のです。それは、ここに登場する女性に会うためでした。もちろん、その女性はそのことを知りません。イエス様がそうしようとお決めになったのです。

適用：イエス様は、この女性に会おうとなさいました。私たちがイエス様にお会いするのも、実はこれと同じなのです。先ず、イエス様が私たちをお選びになり、私たちを愛してくださるのです。私たちがイエス様を選んだのではなく、イエス様を愛したのでもありません。

（２）イエス様が話しかけられた。

イエス様は、サマリヤのスカルという町にあるヤコブの井戸で休んで

おられました。弟子たちは、町へ食料を買いに行っていました。そこに、ひとりの女性が水を汲みに来ました。その女性はサマリヤ人で、昼の 12 時にやって来ました。水くみは、朝か夕ですので、昼間に来たのは、人目を避けるためだったのでしょうか。

その女性に、イエス様は「わたしに水を飲ませてください」と話しかけられました。このひとことが、この女性に疑問と関心を抱かせました。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤ人の女の私に、飲み水をお求めになるのですか」。サマリヤ人であるだけでなく、女に飲み水を求めるとは・・・。それに対しイエス様はこうお答えになりました。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれという者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう」。

女性は、ますます混乱し、「先生。あなたは汲むものを持っておいでにならず、この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのですか」。

適用：イエス様は、私たちにお会いになるだけでなく、私たちに話しかけてくださいます。聖書を読むとき、教会で説教を聞くとき、イエス様は私たちに話しかけてくださっているのです。

２　わたしが与える水を飲む者は、決して渇きません。

（１）この水を飲む者はだれでも、また渇きます（13）。

暑いとき、何倍水を飲んでも喉の渇きが取れないことがあります。イエス様はここで、何を言われたいのでしょうか。それは、人間の心、魂の渇きは、神様以外のものでは満たされないということです。

適用：この女性の場合を考えてみましょう。イエス様が「あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われて、彼女は「私には夫がありません」と答えています。彼女は独身だったのでしょうか。実は、これまで５回も結婚し、今は６人目の人と一緒にいます。それなのに、「夫はありません」とはどういうことでしょう。ここに、この女性の心の渇きを見ます。この女性は「結婚すれば幸福になれる」と思ったに違いありません。しかし、１度目の結婚に失敗しました。離婚したか、夫が死んでしまったのか分かりません。そして再婚しました。しかし、２度目もだめでした。それでもあきらめず、３度、４度、５度と結婚を続けましたが、だめでした。そして、今は６番目の人と一緒にいるのですが、「夫はありません」としか言えないのです。彼女の心は、満足していない、渇いているのです。

適用： ところで、日本人は幸せなのでしょうか。ある調査機関が、世界 100 カ国の人間の幸福度を調査しました。その結果、一位はデンマーク、ア

メリカは 16 位、イギリスは 21 位、フランスは 37 位でした。気になる日本はと言いますと、なんと 100 カ国中 43 位だというのです。どうしてなのでしょう。これを取り上げた新聞は、「いまや働く人の三人に一人まで拡大した非正規労働と、それに伴う格差社会の進行。働いても生活保護以下の収入しか得られないワーキングプアと呼ばれる人々も増えている。正社員にしても成果主義の中で疲れ果てて、働く意欲をなくしている。高齢者が頼りにする年金や医療、介護などの社会保障も次々に後退しているのが実状だ。これに最近は原油高や物価高が追い打ちをかける。こうした生活不安や閉塞感は、つまるところ政治の無策からきているのだと指摘するのはたやすいが、幸福度が高くない理由は、それだけではないだろう。自分の心の中に不幸の種を抱えたままでは、たぶん幸福にはなれない」（2008 年 8 月 16 日四国新聞一日一言）。

幸福は、結局、人の心の中にあるという指摘でしょう。でも、解決策は提示されていません。

（２）わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことがありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。

イエス様は、わたしが与える水を飲む者は、決して渇くことがないと言われました。では、イエス様は、どのようにして、その水をお与えになるのでしょうか。イエス様は、別の場面で（7:37-39）、「だれでも渇いてるなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる」と言われました。そして、それはイエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことをいわれたのである、とあります。

イエス様は、信じる者に聖霊をお与えになり、聖霊は信じる者とともに、信じる者のうちにおられます。ですから、信じる者の心は全く満たされるのです。

３　どうすれば、渇きはいやされるのか。

もうすでに、それは神の御霊が与えられるからであることを見て来ました。聖霊を受けるには、イエス様を信じる必要があります。そして、イエス様は、私たちがその満たしを受けるために、礼拝の必要を教えてくださいました。

（１）真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時がきます（23）。

私たちは、どのようにしてイエス様に、神様にお会いするのでしょうか。

それは、「礼拝」によってです。礼拝は、神様との交わりの時です。神様は、礼拝によって、私たちに神様のみことばを語り、私たちは神様を賛

美し、祈り、自分をささげて礼拝します。

（2）霊とまことによって。

私たちは、神様の御前に罪人です。本来は神様を礼拝する資格のない者です。それが出来るのは、仲介者がいるからです。その仲介者は「霊」（聖霊）と「まこと」（イエス・キリスト）です。

私たちに「まこと」を求められても、私たちには「まこと」はありません。しかし、イエス様は「まこと」であり、しかも、まことでない私たちの罪を負って身代わりの死を遂げてくださいました。ですから、キリストによって、私たちは神様を礼拝出来るのです。

霊によってとは、聖霊によってです。聖霊は私たちをキリストに導いてくださいます。祈ることの出来ない弱い私たちを助けてくださいます。

「霊とまことによって」神様を礼拝する時に、私たちの心も魂もいやされ、渇きがなくなり、満たされるのです。

適用：礼拝には、個人的にする礼拝と、一緒に集まってする礼拝があります。

個人礼拝は、毎日家でします。集まってする礼拝には、家族礼拝と教会での礼拝があります。

教会での礼拝は、神様が日を決めてくださいました。それは「安息日」と呼ばれ、イエス様がお出でになるまでは、土曜日。イエス様がお出でになり、日曜日に復活なさってからは日曜日が礼拝日になりました。神様が日を決めてくださったので、私たちは集まって礼拝できるのです。自分の都合で礼拝するとすれば、私たちは一緒に集まることは出来ないでしょう。日曜日は「主の日」または「聖日」と言って、この日に全世界の神様の民が場所は違い、時間も多少違いますが、集まって礼拝します。クリスチャンにとって、一番大事な時です。

結論

イエス様は、このサマリヤの女のために、サマリヤを通る道を選んでくださいました。イエス様は、あなたに会うためにあなたに近づいてくださいます。イエス様を信じる時に、あなたの渇きはいやされます。 魂の渇きは、仕事や、家庭や、趣味で満たされるものではありません。その渇きは、神様だけが満たすことが出来るのです。あなたが、神様にお会いし、神様を礼拝する人となるときに、渇きがいやされ、本当に幸せな人になれるのです。イエス様は、今あなたに、永遠のいのちの水をお与えになろうとしておられます。